

若手研究者の立場からの問題提起
～「アンケート調査」の分析を通して見えてきたもの～

大阪大学 数理・データ科学教育研究センター
特任助教（常勤）
上阪彩香

「全国大学・研究機関における男女共同参画・ ダイバーシティの推進状況に関するアンケート調査」 分析WGメンバー〈大阪大学〉

工藤眞由美（理事・副学長、実施責任者）

牟田和恵（人間科学研究科 教授）

島岡まな（法学研究科 教授）

梅田純子（接合科学研究所 准教授）

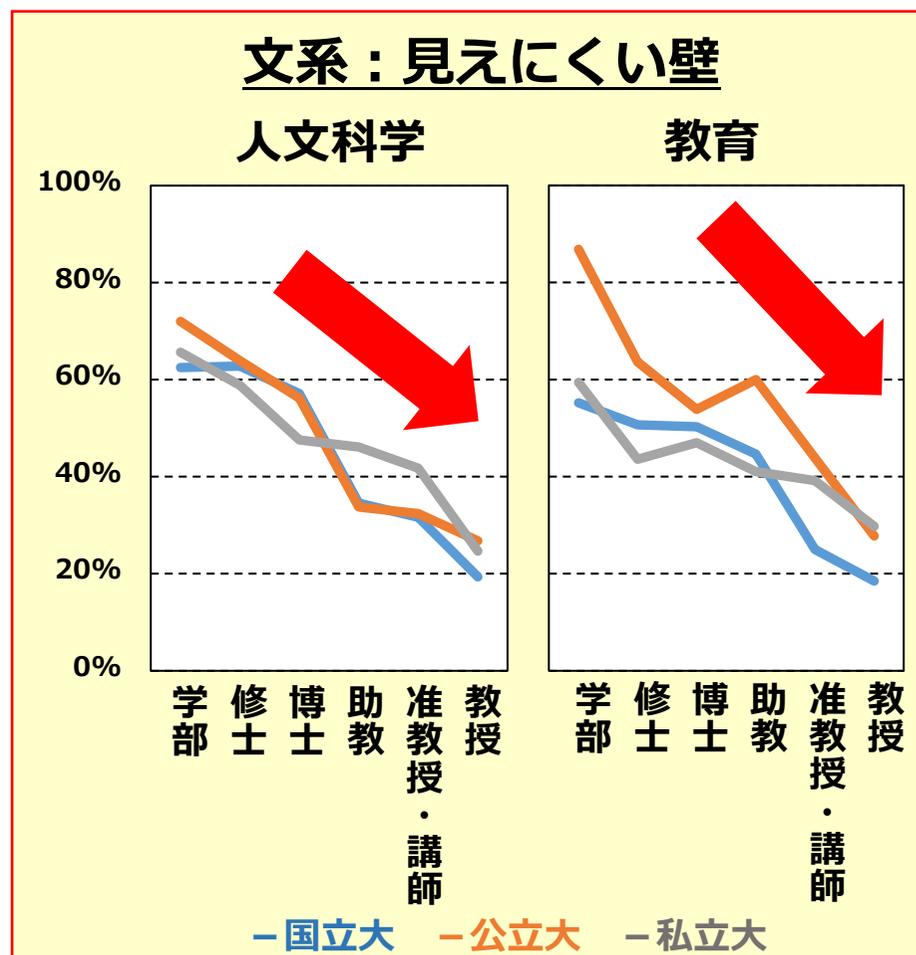
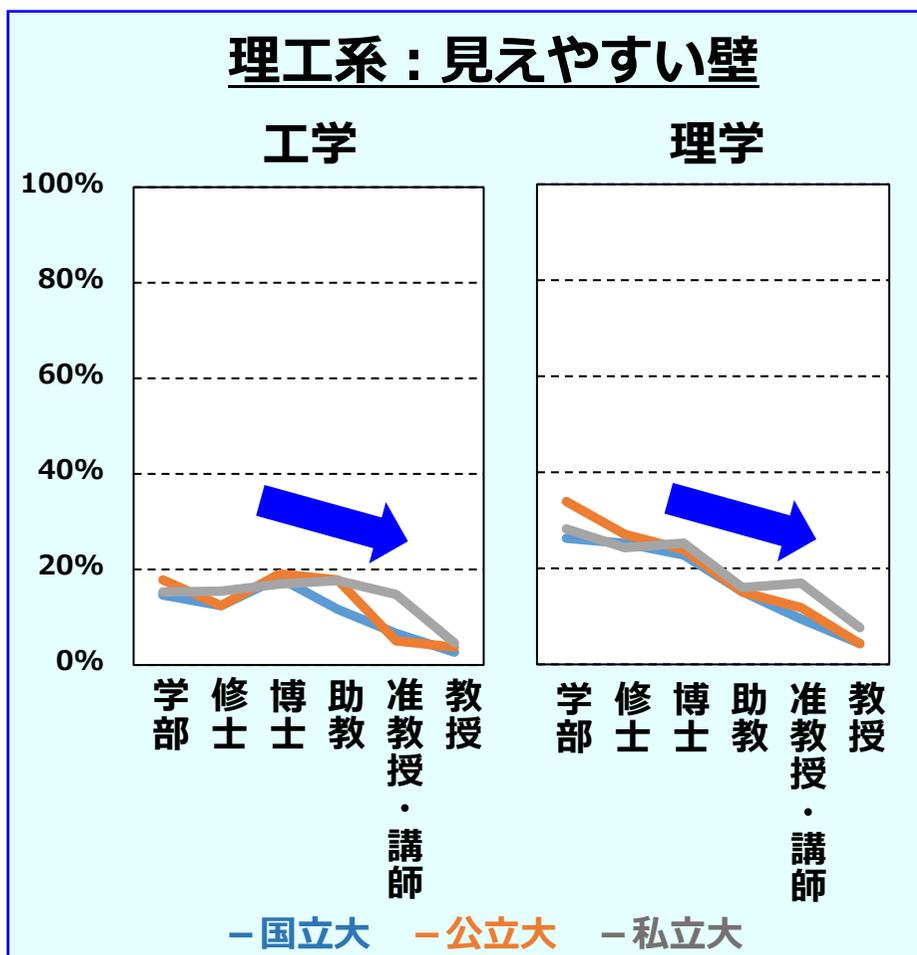
春本要（データリテリティア機構 教授）

下條真司（サイバーメディアセンター長、教授）

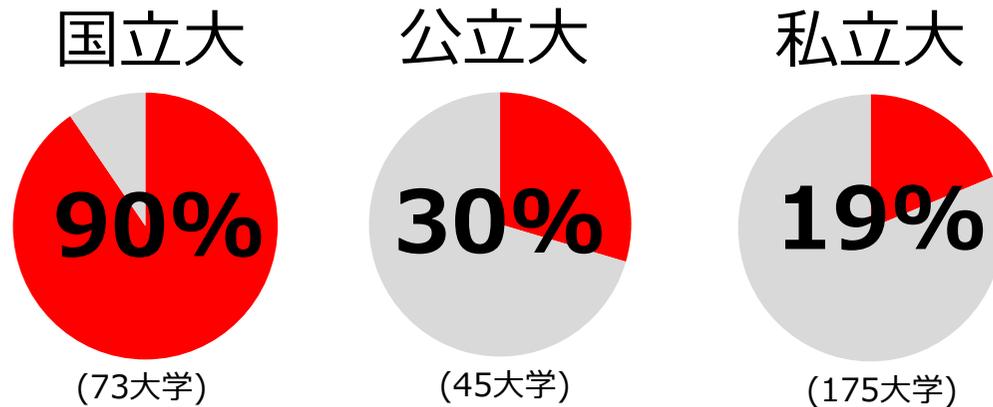
上阪彩香（数理・データ科学教育研究センター 特任助教） 他

見えやすい壁・見えにくい壁

- 全分野、上位職になるに従い女性比率が**下落**
- 特に**文系**（人文科学・社会科学・教育・芸術）及び薬学
学部生は過半数 → **上位職になるにつれ下降の一途**



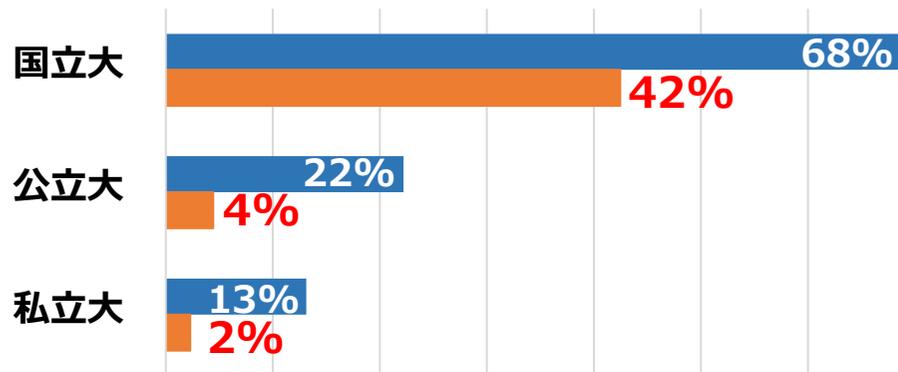
採用時のポジティブ・アクション



- **公立大・私立大**の多くで未実施、女性限定公募はほぼなし
- 未実施の理由は**実力主義**

取り組み内容 TOP2

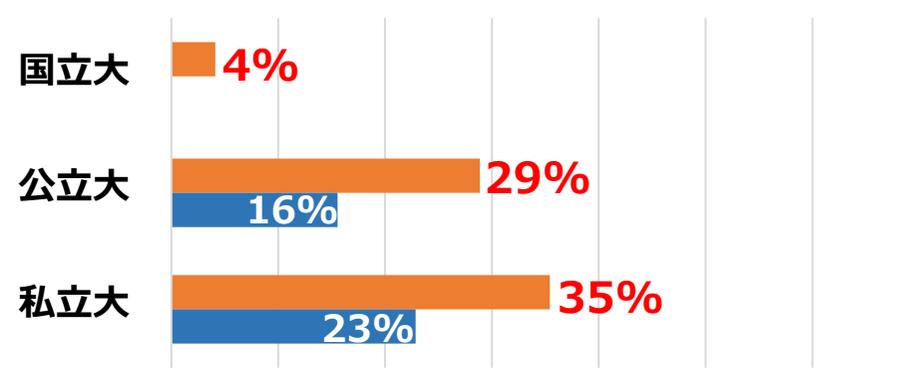
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70%



- 採用時に、業績や能力が同等と認められる場合には、積極的に女性を採用している。
- 特に女性比率が低い分野や部局について、女性限定採用または女性優先採用を実施している。

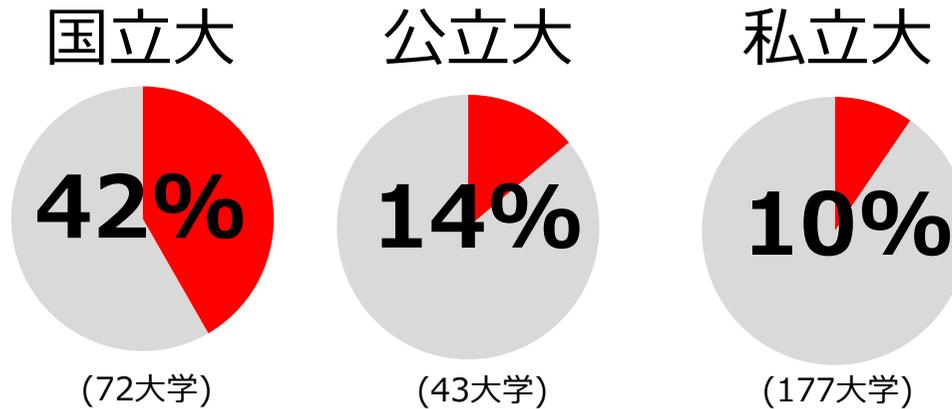
取り組まない理由 TOP2

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70%



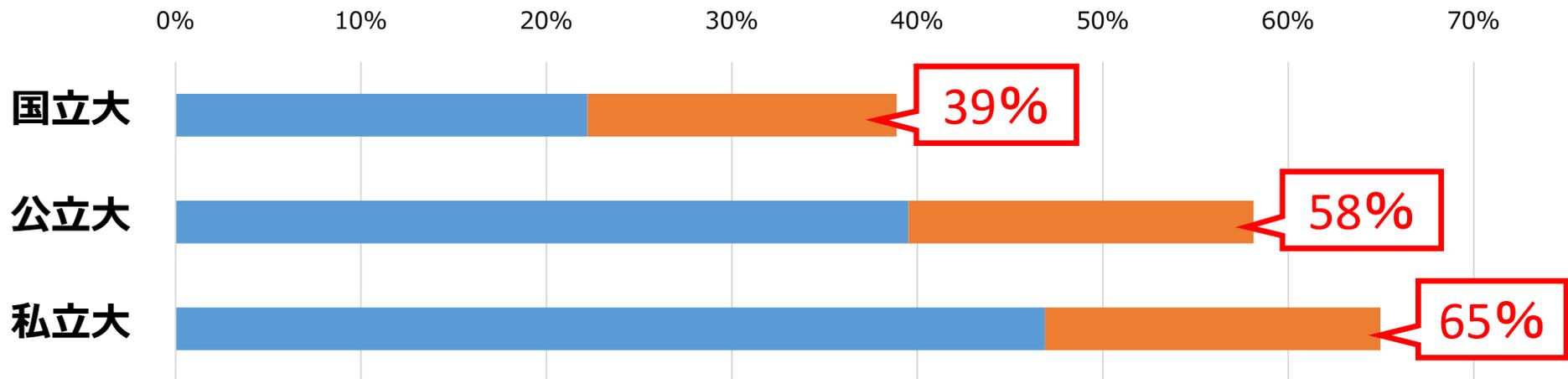
- 実力主義を徹底のためには、ポジティブ・アクションは有益ではない。
- すでに目標となる比率を達成しているため、ポジティブ・アクションの必要性がない。

昇進時のポジティブ・アクション



- 国立大でも**低調**
- 公立大・私立大はより低調
- 男女で**昇進ペースに差がない**と**実力主義**との回答が多い

取り組まない理由 TOP2



- 男女で昇進ペースに差がないので、ポジティブ・アクションの必要性がない。
- 実力主義を徹底のためには、ポジティブ・アクションは有益ではない。

若手研究者：安定的なポストの獲得に向けて

- 研究者としてこれから研究を続けていく上での不安
 - 全分野、上位職になるに従い女性比率が**下落**
 - 大学のあげた未実施の理由は「**差がない**」「**実力主義**」との回答が多く、そもそも**問題が認識されていない**
 - 講師・准教授、教授と進んでいけるのか**不安**
- **アンコンシャスバイアス**の払拭に対する期待
 - 性別によって、採用・昇進やパーマネントポストの**獲得の機会**から排除されない
- **ポジティブ・アクション**に対する期待
 - 女性研究者に「**期待している**」「**居場所はある**」というメッセージ
 - 研究者として活躍する機会